

## JK Books 「風俗画報」と Gale Primary Sources コラボ企画

## 「風俗画報」と欧米の図版資料 ～自然災害～

株式会社 ゆまに書房

Web版風俗画報は、ジャパンナレッジが提供する電子書籍プラットフォーム JK Books 上で、我が国最初のグラフィック雑誌「風俗画報」を提供するデータベースです。明治 22 (1889) 年創刊、518 冊からなる「風俗画報」は、我が国最大の風俗研究誌としても知られます。

「風俗画報」に掲載されている図版を、センゲージラーニング社 Gale のデータベースに掲載された欧米の図版資料と比べながらご紹介する企画、第一弾「万国博覧会」、第二弾「起源・始まり」に続き、第三弾は「災害・事故」について 7 月号と 9 月号の 2 号にわたってご紹介します。両資料を比較することで、欧米と日本に於ける災害の特徴や救済方法、報道姿勢や報道技術などについて、新たな発見があるかもしれません。

本稿では、「災害・事故」の中でも「自然災害」についての記事や図版をクローズアップします。

## ◆「風俗画報」における特集号

風俗画報は当初、世俗や風俗を検証して紹介し、後世に残すという目的で創刊されました。創刊直後の明治 22 年頃の号を見ると、江戸時代の風俗を回顧、考証した記事が多く、ニュース性、同時代性という色合いはあまり濃くありません。

ところが、明治 23 年に第三回内国勸業博覧会が開催され、また、明治 24 年に濃尾大地震が起こると、風俗画報史上初めて特集号が出されました。当時の人々に大きなインパクトを与えたこの 2 つの出来事により、風俗画報編集部も即時的な報道の必要性を感じたということの現れではないでしょうか？

その後、多数の特集号が発行されることとなり、風俗画報と言えば特集号が多いというイメージになりますが、そのきっかけになったのはこの 2 年間の出来事だったのではと思われまます。

今回はその特集号や通常の号の記事や図の中から、風俗画報が「自然災害」をどう報じていたかをご覧くださいませ。

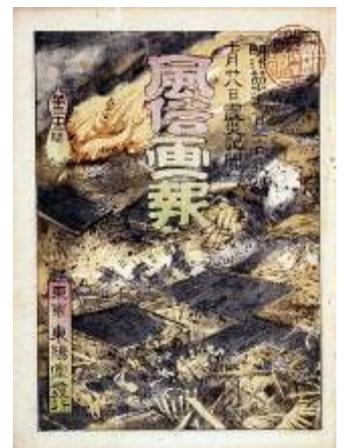
## ◆地震についての記事、図版

第 35 号(明治 24 年 11 月 30 日) 十月二十八日震災記聞

第 36 号(明治 24 年 12 月 10 日) 震災記聞前号之続

特集号名になった「十月二十八日震災」とは、明治 24 (1891) 年 10 月 28 日に濃尾地方で発生した地震のことです。現在では「濃尾地震」と呼ばれていることが多いようです。マグニチュード 8 という規模で、大きな被害を出しました。

表紙 十月二十八日震災記聞 第 35 号  
(明治 24 年 11 月 30 日)



震災の特集号はこの図から始まっています。

柱や梁が倒れ下敷きになっている人達があります。また、その後に起こるのであろう火事の怖さが非常に良く伝わってきます。当時の建築事情と被害の様子が図から良く分かりますね。

芥川龍之介の「疑惑」という作品にはこの図に基づいて書かれたと言われている部分があり、実際に文中には風俗画報の名前も出てきます。もし「疑惑」を読む機会があれば、是非この図と一緒に見て欲しいと思います。

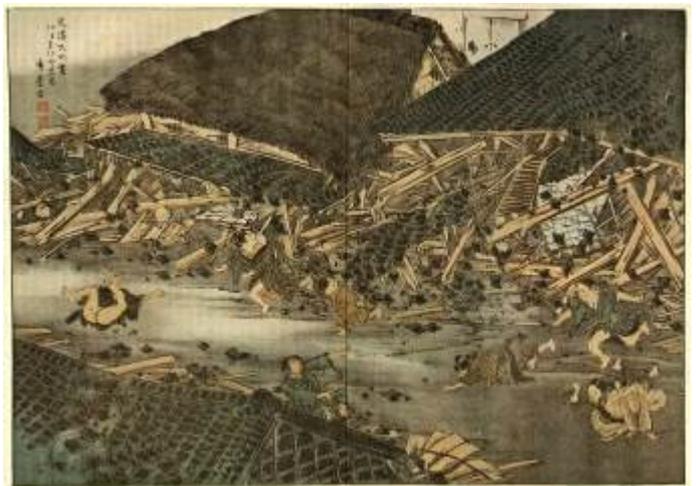


震災図 十月二十八日震災記聞 第 35 号  
(明治 24 年 11 月 30 日)

命からがら外に逃げ出している人、逃げ遅れて建物の下敷きになっている人、それぞれが描かれています。

大きな揺れのため、建物が倒壊するのは一瞬だったのではないのでしょうか、そんな様子がかうかがい知れます。

こういった図を見ると、災害が起きたときにはどのような被害が出るか良く分かりますね。

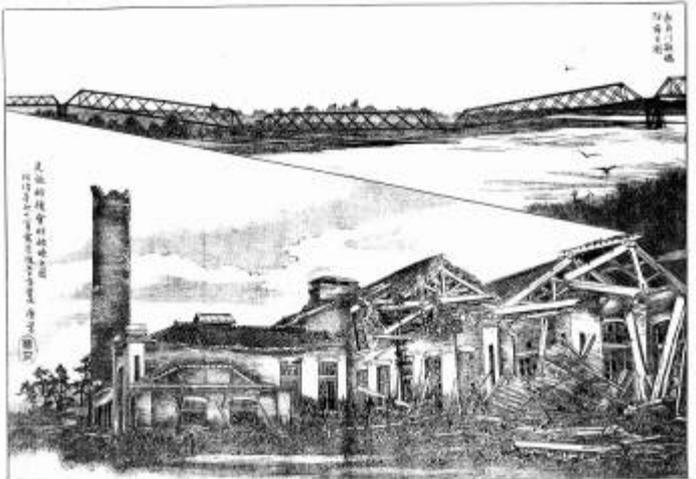


尾張大地震之図 震災記聞前号之続 第 36 号  
(明治 24 年 12 月 10 日)

右にご紹介する図は、上下 2 つの図版で構成されています。図上部の長良川鉄橋は地震の発生する 4 年前、明治 20 年に出来たばかりでした。

また下部の図にある尾張紡績会社は煉瓦造りの西洋建築でしたが、地震の被害に遭ったようです。

当時の先端技術も自然災害にはかなわなかったという悲しさが感じられます。



長良川鉄橋陥落の図／尾張紡績会社破壊の図  
十月二十八日震災記聞 第 35 号  
(明治 24 年 11 月 30 日)



◆津波についての記事、図版

- 第118号(明治29年7月10日) 海嘯被害録上巻
- 第119号(明治29年7月25日) 海嘯被害録中巻
- 第120号(明治29年8月10日) 海嘯被害録下巻

我々にとってまだ記憶に新しい2011年の東日本大震災における津波同様、明治29(1896)年6月15日に起こった大地震とそれにもなつて発生した三陸の大津波は、全3巻の特集号というボリュームが語るとおり、衝撃的な出来事だったようです。

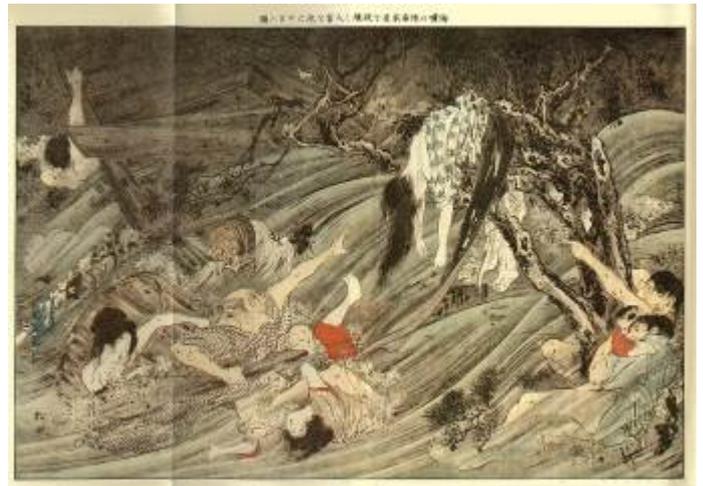
風俗画報の中では「津波」を指す言葉として「海嘯」と言う言葉が使われていますが、WEB版では「津波」と入力してでも検索することができる様にキーワードを付加しています。

この特集号で一番有名な図がこちらではないでしょうか。

激しい水の流れに抵抗しながら、お互いに助け合っている様子が良く分かります。しかし水の勢いには抗えない、そんな無念さも伝わってきます。津波の怖さを良く表していますね。



表紙 海嘯被害録上巻  
第118号  
(明治29年7月10日)



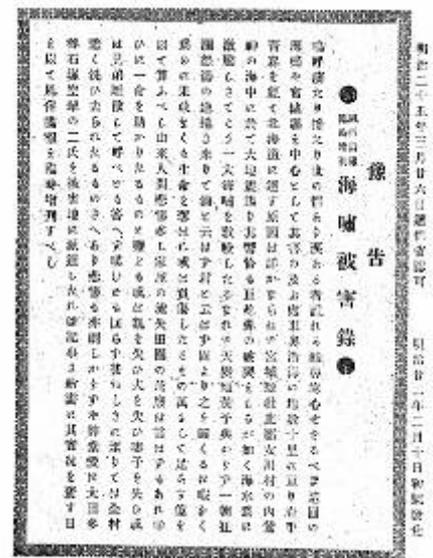
海嘯の惨毒家屋を破壊し人畜を流亡するの図  
海嘯被害録上巻 第118号(明治29年7月10日)

特集号では各地の被災状況を紹介しています。

この津波発生直後に刊行された117号(6月28日刊行)の巻末には、「海嘯被害録」の刊行予告が載っています。災害発生から特集号を出すことをすぐに決定したのが分かります。

予告記事には二名を被害地に派遣することも書かれていて、この二人が各地を取材したのでしょう。

特集号の上巻が発売されるまで約一ヶ月ありますが、取材範囲は広範囲に及び、風俗画報編集部の情報収集能力の高さが良く分かります。



裏表紙 風俗画譚  
第117号(明治29年6月28日)

両親と自分の子供が流されていくのを助けることが出来ず、どんどん離れていく様子が描かれています。

こういった「無情の別れ」が各地で頻繁に起きていたようで、色々なエピソードが記事と図で紹介されています。

自然災害の恐ろしさ、非情さが伝わってきます。



樹上より両親愛子の最期を見送るの図(釜石町)  
海嘯被害録上巻 第118号(明治29年7月10日)

痛ましい被害の様子の記事や図が多数収録されている一方で、「運良く一命を取り留めた」という記事や図も多く掲載されています。

この図では女の子が臼の中に入って助かった様子が描かれています。

少しでもこういった話があると救われる気がしますね。それは当時の編集者も同じ気持ちだったのかもしれない。



海嘯被害録下巻 第120号(明治29年8月10日)

#### ◆洪水についての記事、図版

第124号(明治29年10月10日)	洪水地震被害録上巻
第126号(明治29年11月1日)	大洪水被害録中巻
第128号(明治29年11月20日)	大洪水被害録下巻
第370号(明治40年9月15日)	各地水害図会
第412号(明治43年9月5日)	風俗画報水害号上
第412号(明治43年10月5日)	風俗画報水害号下

津波と同じ年の明治29年には、日本各地の広範囲に集中豪雨による洪水被害が起こりました。各地方の被害状況を報じるため全3巻のボリュームで特集号が出されました。

実際に秋田県から兵庫県まで様々な地域の被害についての報告が載っています。



表紙 大洪水被害録中巻  
第126号  
(明治29年11月1日)

右の図は、神戸の遊郭の被害状況を報じる図です。慌てて高い場所に避難していますが、間近まで水が迫ってきています。

当時は高層の建物もあまりなく、逃げる場所も少なかったことでしょう。



兵庫県神戸市福原町遊廓水害に遭うの図  
大洪水被害録下巻 128号 (明治29年11月20日)

こちらも神戸の状況です。記事によると、午後11頃には寝ている人の顔まで水が迫ってきていたそうです。とても急な出来事だったことが人々の様子からもうかがい知れます。また、お互いに何とか助け合おうとしている姿も描かれています。



神戸市荒田町宮本某家族の惨状  
大洪水被害録中巻 126号 (明治29年11月1日)

こちらは長野県の鉄橋の様子です。洪水によって各地で数多くの橋が崩壊したようですが、鉄の橋も流す勢いだったということでしょうか？

地震の特集号にも鉄橋の崩落を報じる図がありましたが、明治時代には鉄橋が多数建設されていたことも分かります。



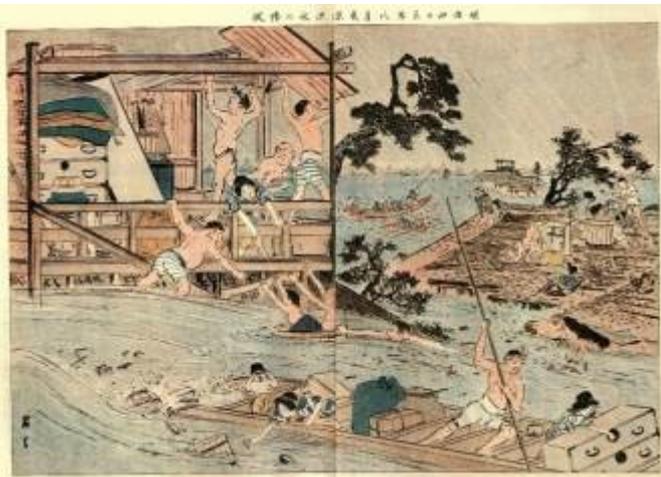
信州丹波島鉄橋破壊の図 大洪水被害録中巻 126号  
(明治29年11月1日)

明治40年と明治43年には東日本の広範囲で被害をもたらした洪水があり、それぞれに特集号が発行されています。

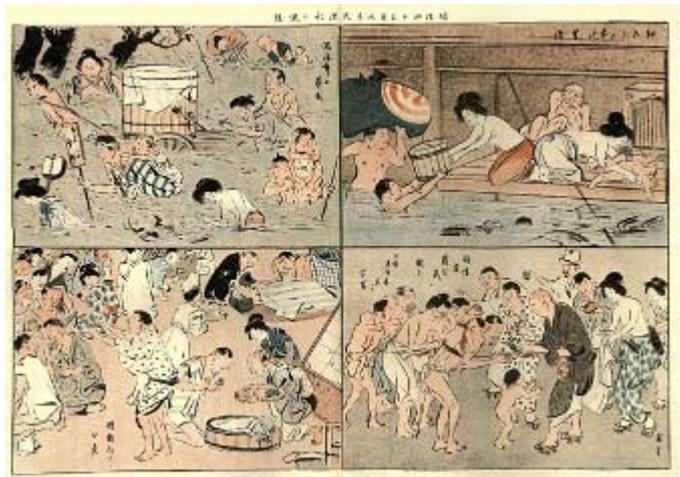
各々の洪水時の様子を表した図には明治29年の時と違って人々のたくましさを感じられます。これは前回の経験に基づいた行政の対応や、人々の行動も要因かもしれません。また治水事業などの整備がより進んだ成果なのかもしれません。



水害中の隅田川堤上の光景 各地水害図会 第370号  
(明治40年9月15日)



明治四十三年八月東京大洪水の惨状 風俗画報水害号上  
412号 (明治43年9月5日)



明治四十三年八月大洪水の混雑○押入れの中で生活他  
風俗画報水害号下 413号 (明治43年10月5日)

まだまだご紹介したい「災害」に関する記事や図は沢山ありますが、今回はここまでにしませう。

風俗画報がその編集方針を大きく変えるきっかけになったと思われる「災害」に関する記事や図の中には自然災害に対する恐怖ややりきれない怒り、被害に対する悲しさなどがひしひしと伝わってきます。編集者や絵師の気持ちがとても良く現れているのではないのでしょうか。みなさんも風俗画報で「災害」に関する記事や図をご覧ください、その気持ちを感じていただけたらと思います。

今回は明治時代の「防災対策」や、「災害時の救援、救済」はどのように行われていたのかを記事や図でご紹介いたします。是非ご期待ください。

ブログ「[JK BOOKS「風俗画報」こんな記事も載っています!](#)」では他にも色々なテーマで風俗画報の図版や記事を紹介しています。

また、[Twitter](#)でも情報を発信しております。こちらも是非ご覧ください。

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部  
(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:[online@kinokuniya.co.jp](mailto:online@kinokuniya.co.jp))までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。